

研究課題名	「おかやま四ツ☆子牛」認定率向上を目指した子牛生産技術の確立		
予算区分	県 単 (2,804千円)	担 当	飼養技術研究室 生産性向上研究グループ
研究期間	継 続 (平成26～28年度)	協 力 関 係	
研究目的	<p>本県では、子牛市場での子牛価格上昇による農家所得向上のため、関係団体が「岡山和牛推奨子牛（おかやま四ツ☆子牛）認定基準」を作り、同基準に適合する発育良好な子牛づくりを推進しているところである。</p> <p>しかしながら、市場出荷される子牛のうち、特に人工哺育牛の発育にバラツキが大きく、認定率が低迷しているのが現状である。</p> <p>そこで、人工哺乳牛の発育を改善し、認定率を向上させるため、妊娠後期の母牛及び子牛の哺育期から育成期にかけての栄養補給方法を見直し、疾病に強く発育良好な子牛の生産技術を確立する。</p>		
全体計画	<p>(1) 分娩末期母牛の栄養管理方法等の検討する。</p> <p>(2) 人工哺育牛への代用乳給与方法の違いが発育等の与える影響を検討する。</p> <p>(3) 粗飼料を中心とした高栄養型飼料給与による育成技術を検討する。</p>		
研究対象	肉用牛	専 門 部 門	飼養管理
<p>○ 本年度試験のねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 分娩2～3ヶ月前の母牛における胎児の発育に必要な栄養の補給方法及び適正な給与水準を見直し、生まれてくる子牛の生時体重等の発育性に与える影響を調査する。 2 子牛の発育向上のために行う強化哺育において、離乳後の低栄養ショックを緩和する人工哺乳プログラムを検討する。 3 増体の劣る人工哺乳の雌子牛について、粗蛋白質を補給することにより過肥を防止しながら発育を向上させる飼料給与方法を検討する。 <p>試験1 妊娠末期牛の栄養管理方法の検討 〈時 期〉 平成27年4月～平成28年3月 〈試験の内容〉 給与飼料中のTDNの違いが生時体重等の出生子牛に与える影響を調査する。</p> <p>試験2 人工哺乳における代用乳給与方法の検討 〈時 期〉 平成27年4月～平成28年3月 〈試験の内容〉 人工哺乳において、人工乳を効率よく摂取させ、栄養ショックを起こさせないスムーズな離乳を促す哺乳後期の代用乳 給与技術を検討する。</p> <p>試験3 育成期における粗蛋白質給与方法の検討 〈時 期〉 平成27年4月～平成28年3月 〈試験の内容〉 子牛の発育に重要な粗蛋白質の補給方法について、過肥を防止しながら発育を向上させる給与方法を検討する。</p> <p>○ 前年度までの成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妊娠末期牛の栄養管理方法の検討 出生子牛の平均体重は、雄が対照区(n=3)30.4kg、試験区Ⅰ(n=3)30.9kg、試験区Ⅱ(n=2)25.9kgであり、雌が対照区(n=1)31.8kg、試験区Ⅰ(n=2)28.5kg、試験区Ⅱ(n=2)31.4kgであった。総平均体重は、対照区30.8kg、試験区Ⅰ30.0kg、試験区Ⅱ28.7kgとなり、対照区が最も重かったが各区とも有意な差は見られなかった。 2 人工哺乳子牛への代用乳給与方法の検討 代用乳摂取割合は、対照区99%、試験区Ⅰ98%、試験区Ⅱ96%と給与量が多くなるほど低下したが、摂取量はそれぞれ52kg、73kg、103kgと試験区の方が多く摂取していた。発育は、対照区と比較して試験区の方が体重及び体高の試験期間中の増加量が高かった。 			

「おかやま四ツ☆子牛」認定率向上を目指した子牛生産技術の確立

背景

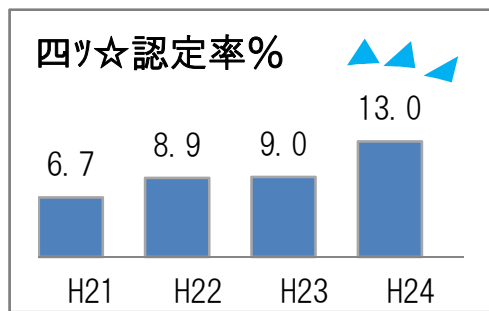
岡山和牛子牛市場で子牛価格が低迷

発育にバラツキがあることが要因

対策

H20年～「おかやま四ツ☆子牛」認定基準を策定

基準に適合した子牛を「おかやま四ツ☆子牛」として認定し、セリで有利販売を行っている。



認定率は年々上昇しているが・・・

認定率をさらに上げるためには？

H24認定率	自然哺乳	人工哺乳
去勢	20.5%	<u>9.6%</u>
雌	11.9%	<u>4.5%</u>

人工哺乳牛に発育のバラツキが大きい！

= 人工哺乳牛の認定率が低迷

実施内容

●胎児期の試験（妊娠末期母牛への栄養補給方法等の検討）

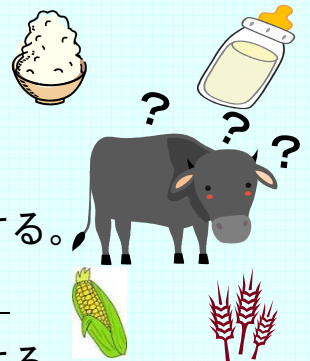
分娩2～3ヶ月前の母牛への栄養補給方法を検討する。

●哺育期の試験（人工哺乳牛への代用乳給与方法の検討）

人工哺乳牛（0～3ヶ月齢）への効率的な代用乳給与方法を検討する。

●育成期の試験（粗飼料型高栄養型飼料による育成技術の検討）

育成牛への粗飼料を中心とした高栄養型飼料給与方法を検討する。



成果の活用

- ・発育良好な子牛多数
- ・購買者増加による市場活性化



子牛価格
上昇

